

● 市内の市街化区域全域を低炭素まちづくり計画区域、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の重点事業を進めている大宮地区、浦和美園地区を「集約地域」として位置付け、超小型モビリティの活用やスマートコミュニティの整備などの施策を通じて、持続可能で活力あるまちづくりを実現していくための指針となる計画。

■低炭素まちづくりの将来像

豊かな自然や歴史・文化資源に身近に触れあえ、エネルギーのスマート活用と環境負荷の少ない交通システムに支えられた持続可能な環境未来都市

■計画の期間：平成26年度から平成30年度までの5年間

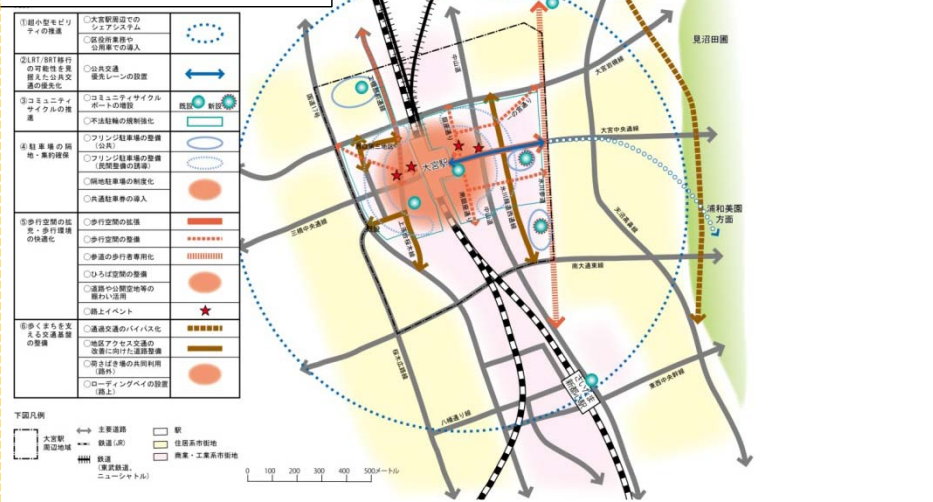
■集約地域における主な取組

■計画の目標（温室効果ガス削減目標値）

2020年における削減率（2009年度比）

- ◆民生業務部門 25%削減
- ◆民生家庭部門 22%削減
- ◆運輸部門 15%削減

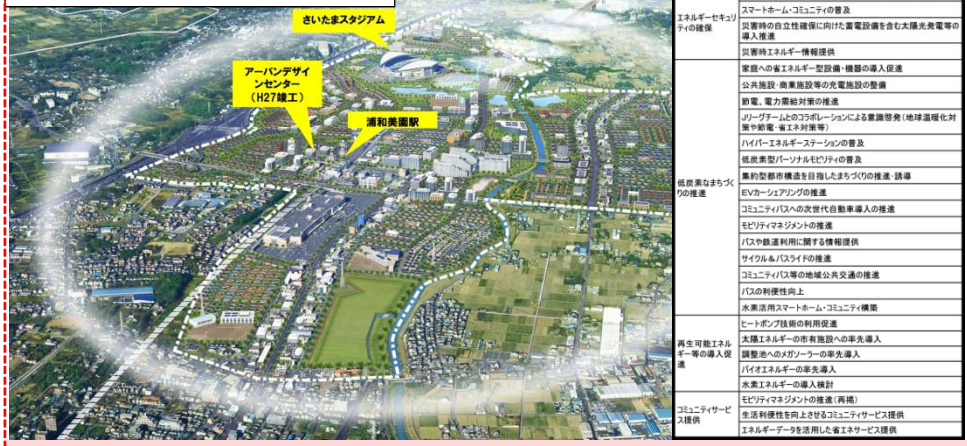
大宮地区（約190ha）



新たな交通システムや歩くまちの推進、低炭素建築物の集積による低炭素化モデル事業の先導地区と位置付けて、各分野の施策を推進

- 超小型モビリティを活用した「新たな交通システム」の構築
- LRTなど新交通システムの導入可能性を見据えた公共交通の優先化
- コミュニティサイクルサービスステーションの高機能化
- 駐車場の隔地・集約確保
- 歩行空間の拡充・歩行空間の快適化
- 参道の歩行者専用化
- 大規模建築物の低炭素化

浦和美園地区（約316ha）



さいたま市が目指す「スマートシティの国際モデル」の構築に向けた先導モデル地区と位置付けて、各分野の施策を推進

- 地域エネルギーマネジメント共通プラットフォームの構築
- EVを蓄電池として活用する低炭素型エネルギーネットワークの構築
- 独自の低炭素住宅認証制度の創設とインセンティブの付与
- 電力小売自由化に向けた一般家庭向け新電力サービスの検討
- 生活利便性と地域のブランド力を向上させる様々なコミュニティサービスの提供
- エネルギー・モビリティ・ヘルスケア・スポーツ等に関する先端研究、実用化の拠点を目指し、企業・大学研究者と協業